

「令和 7 年版県民活動白書」の概要について

山口県県民活動促進条例第 14 条の規定により、本県の県民活動の促進の状況及び県民活動に関する施策について報告するもの。

I 報告のポイント

- ・ 県民活動の現状等を継続的に把握するために、毎年度「県民活動団体の活動実態調査」を実施し、その結果を掲載するとともに、県、市町、関係団体等の取組を取りまとめて掲載
- ・ 令和 5 年 3 月改定の「山口県県民活動促進基本計画」に掲げる「3つの基本方針」に基づく、令和 6 年度県民活動関連施策の実績及び令和 7 年度県民活動関連施策の計画を掲載
 - 【3つの基本方針】
 - 県民活動への理解と参加の促進
 - 県民活動団体の基盤強化に向けた人づくり・環境づくり
 - 県民活動団体と多様な主体との協働の推進

II 構成

第 1 部 県民活動の現状と課題

- ・ 「県民活動への参加状況」をはじめ、「県民活動団体の活動状況」や「県民活動支援拠点（機関）の状況」、「NPO 法人の認証・認定状況」について、令和 7 年度県民活動団体の活動実態調査などの調査データを分析して掲載

第 2 部 令和 6 年度県民活動関連施策の実績

- ・ 県、山口きらめき財団及び県民活動支援センターの令和 6 年度県民活動関連施策の実績について、事業の概要をわかりやすく一覧にまとめ、主な事業については「山口県県民活動促進基本計画」に掲げる 3 つの基本方針ごとに抜粋して掲載

第 3 部 令和 7 年度県民活動関連施策の計画

- ・ 「山口県県民活動促進基本計画」に掲げる 3 つの基本方針に基づく、県、山口きらめき財団及び県民活動支援センターの令和 7 年度県民活動関連施策の計画について、第 2 部と同様に掲載

第 4 部 市町における取組

- ・ 市町における取組の概要や条例・計画の状況及び県民活動支援拠点の取組について掲載

（参 考）「県民活動に関するあゆみ」及び「山口県県民活動促進条例」掲載

Ⅲ 報告書の概要

第1部 県民活動の現状と課題

【県民活動団体数】

令和6年度：2,661 団体

年 度	R2	R3	R4	R5	R6
団体数	2,443	2,445	2,580	2,680	2,661

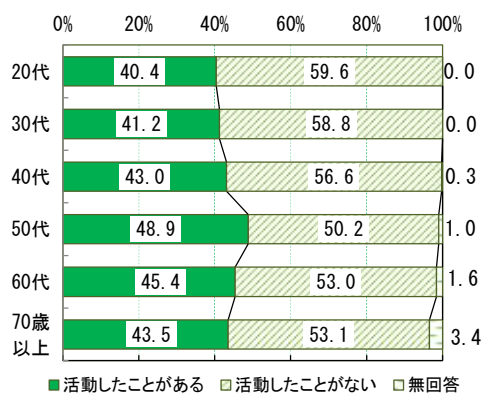
【県民活動への参加】

県民活動に参加したことがある県民の割合は5割を下回り、20代の参加割合が最も低い状況である。

団体の会員についても、中心的な活動メンバーは50代以上が約8割を占め、特に30代以下の割合が低い。

また、会員が増加したのは約1割に留まっているため、参加しやすい環境づくりの推進が必要である。

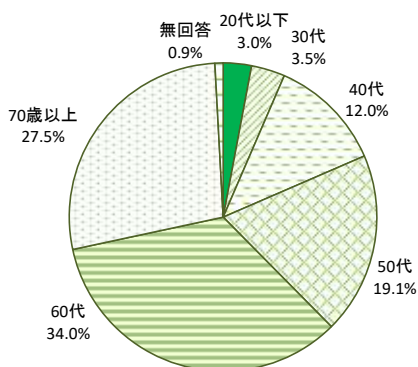
【県民活動への年代別参加割合】



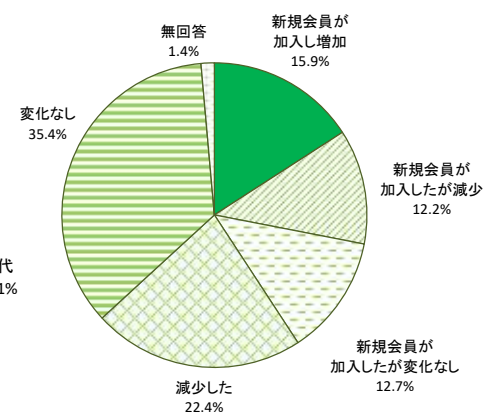
■ 活動したことがある ■ 活動したことがない □ 無回答

上記はR5山口県「県政世論調査」の調査データ

【中心的な活動メンバーの年代】



【会員数の状況】

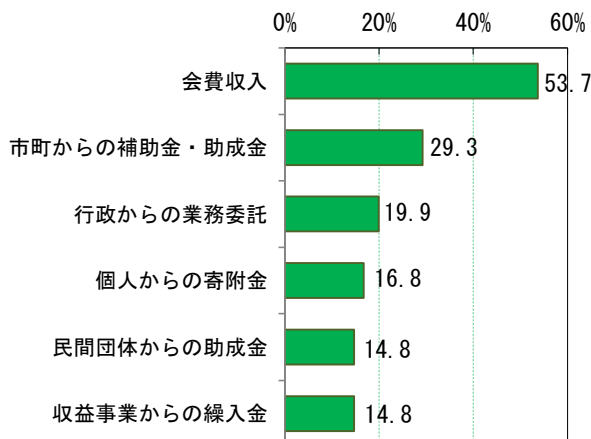


【団体の基盤】

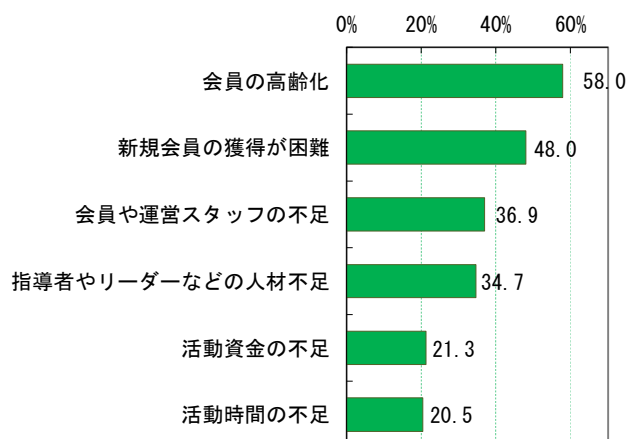
主な収入源として、会費収入をあげている団体が半数以上であり、財政基盤の弱い団体が多い。

また、会員の高齢化など人材に関する課題が上位を占めており、団体の基盤強化が必要である。

【団体の収入源】



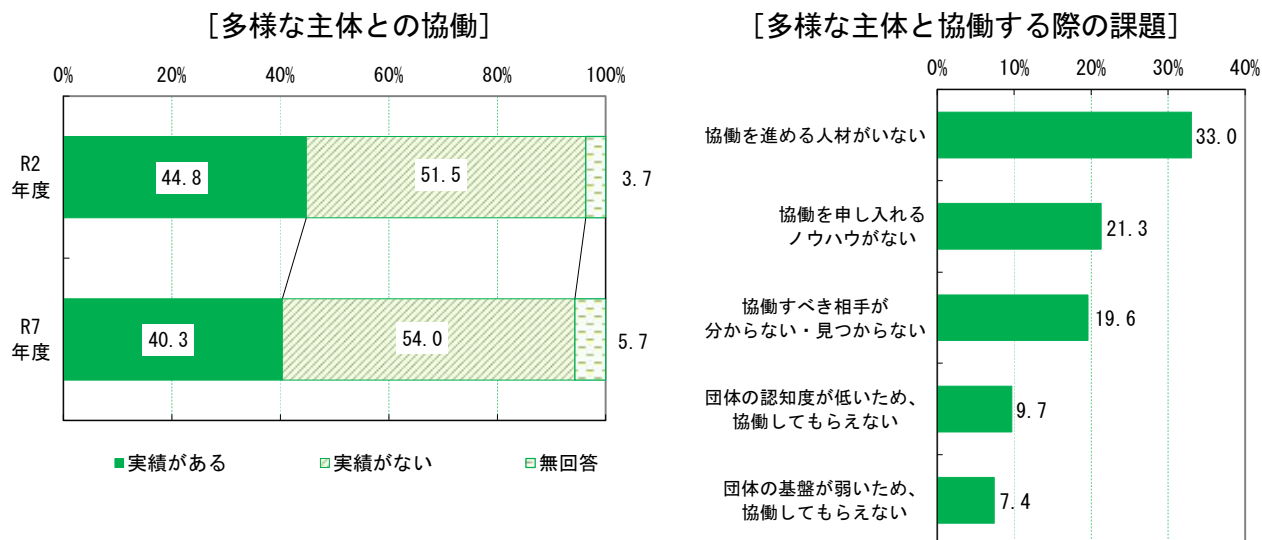
【活動を行う上での課題】



【協働】

団体と多様な主体との協働の実績は、約4割と低い状況にある。

また、協働を進める際の課題として「協働を進める人材がいない」という回答が約3割となっており、協働をコーディネートする人材の育成など、多様な主体と協働できる体制を整備することが必要である。



第2部 令和6年度県民活動関連施策の実績

基本方針1 県民活動への理解と参加の促進

施策の展開方向	事業の概要
イベントの開催による県民活動への理解と参加の促進	●きららでキラリ！県民活動促進事業 ・山口きらら博記念公園でのイベント「きららでキラリ！県民つながるフェスタ」の開催 10月26日（土）・27日（日） ステージ発表10団体、ブース出展40団体、運営ボランティア延べ17名 ・出展者・運営ボランティア交流会の開催 7回 参加者延べ155名
若年層の参加促進に向けた高校・大学等との連携	●未来へつなぐ！若者の県民活動促進事業 ・高校生・大学生等を対象とした団体活動説明会の開催 10回 延べ29団体 受講者768名 ・ボランティア体験会の開催 46回 16団体 参加者延べ331名 ・体験会等を活用した情報発信の強化

基本方針2 県民活動団体の基盤強化に向けた人づくり・環境づくり

施策の展開方向	事業の概要
プロボノの活用による県民活動団体の基盤強化	●プロボノによる県民活動団体の基盤強化事業 ・「やまぐちプロボノワーカースタンプ」の管理運営 プロボノワーカースタンプ登録者数 125名 ・「やまぐちプロボノコンシェルジュ」の配置 マッチング件数 25件 (受入25団体、プロボノワーカースタンプ延べ73名)

基本方針３ 県民活動団体と多様な主体との協働の推進

施策の展開方向	事業の概要
「協働ファシリテーター」による協働の推進	●協働ネットワーク強化による県民活動促進事業 ・「地域協働ファシリテーター」養成研修の開催 2回 参加者 22名 ・市町民活動支援センターへの支援 個別支援等 10市センター ・「協働ファシリテーター実践のしおり」の作成 ・情報共有会議の開催 2回 参加者延べ 38名
「あいかさねっと」を活用したマッチングの推進	●「あいかさねっと」等を通じたボランティア活動マッチング件数 488件

第３部 令和７年度県民活動関連施策の計画

基本方針１ 県民活動への理解と参加の促進

施策の展開方向	事業の概要
イベントの開催による県民活動への理解と参加の促進	●きららでキラリ！県民活動促進事業 ・山口きらら博記念公園でのイベント「きららでキラリ！県民つながるフェスタ」の開催 ・出展者や運営ボランティア等が参加する交流会の開催
若年層の参加促進に向けた高校・大学等との連携	●未来へつなぐ！若者の県民活動促進事業 ・団体活動説明会の開催 ・ボランティア体験会の開催 ・体験会等を活用した情報発信の強化

基本方針２ 県民活動団体の基盤強化に向けた人づくり・環境づくり

施策の展開方向	事業の概要
プロボノの活用による県民活動団体の基盤強化	●プロボノによる県民活動団体の基盤強化事業 ・「やまぐちプロボノワーカースバンク」の管理運営 ・「やまぐちプロボノコンシェルジュ」の配置 ・プロボノ交流会・活動報告会の開催

基本方針３ 県民活動団体と多様な主体との協働の推進

施策の展開方向	事業の概要
「協働ファシリテーター」による協働の推進	●協働ネットワーク強化による県民活動促進事業 ・「地域協働ファシリテーター」養成研修の開催 ・市町民活動支援センターへの支援 ・情報共有会議の開催
「あいかさねっと」を活用したマッチングの推進	●「あいかさねっと」の利用促進

第４部 市町における取組

- ・市町における県民活動に関する条例・計画の状況や活動概況、取組方針等
- ・市町民活動支援センター等の県民活動支援拠点の取組

令和7年度 県民活動関連事業



I 県事業の概要

未来へつなぐ！若者の県民活動促進事業



趣 旨

若者の県民活動への理解を促進するとともに、県民活動団体や高校・大学等と連携して、参加機会の創出や参加しやすい環境づくりを行い、未来の県民活動を支える若い世代の人材育成を図り、県民活動の裾野を拡大

事業内容

【事業費：4,714千円】

項 目	内 容
理解と参加の促進	○<u>団体活動説明会の開催</u> ・ 高校生や大学生等を対象に、授業や講義、市町民活動支援センターの行事等で団体の活動紹介を実施 ○<u>ボランティア体験会の開催</u> ・ 団体の活動を実際に体験し、参加者間による意見交換を実施 ○<u>体験会等を活用した情報発信の強化</u> ・ 体験会に参加した高校生、大学生等のインタビューを含む活動紹介動画の作成 ・ 体験談等の情報発信による普及啓発

事業イメージ

高校や大学等と連携した若い世代の県民活動に対する理解と参加の促進

●団体活動説明会の開催

高校の授業や大学の講義、市町民活動支援センター等で実施



高校生、大学生等のニーズを踏まえて実施

●ボランティア体験会の開催

団体の活動を実際に体験
参加者間での意見交換の実施



若者向けの情報発信による普及啓発

●高校の1人1台タブレット端末

高校生、大学生等が参加した体験会等を活用した情報発信



●「あいかさねっと」

ボランティア募集情報を掲載する際、活動紹介動画等を活用



●YouTube

体験会を通じて作成した活動紹介動画等を掲載



未来の県民活動を支える人材の育成・裾野の拡大



活動説明会

	場 所	受 講 者	団 体
1	梅光学院大学	国際学部1～4年 (70名)	3団体
2	山口芸術短期大学	芸術表現学科2年 (27名)	3団体
3	防府商工高等学校	1～3年 (50名)	3団体
4	山口県立大学	社会福祉学部1年 (110名)	4団体
5	新南陽高等学校	1年 (149名)	3団体
6	山口県立大学	社会福祉学部2年 (13名)	1団体
7	徳山商工高等学校	2～3年 (151名)	3団体
8	山口大学	人文学部2～4年 (55名)	3団体
9	桜ヶ丘高等学校	2年 (120名)	4団体
10	徳山高等学校	1～3年 (23名)	2団体

【場 所】 高校5校、大学等5校 【受講者】 768名
【団 体】 20団体（延べ29団体）

《説明団体（抜粋）》

団 体 名	所在地	主な活動内容
ポポメリー	山口市	がんに関する相談・支援・情報共有・交流に関するサポート
着物交流サークル	防府市	和装体験を通じた着物文化の継承など
特定非営利活動法人ふるさと下関応援団	下関市	市民活動促進を目的とした情報発信・相談対応など
ハダシランド周南	周南市	子どものプレーパーク（冒険遊び場）の普及に関する活動



新南陽高等学校



山口芸術短期大学



山口大学

ボランティア体験会（抜粋）

団体名	所在地	体験内容
山口県ボッチャ協会	山口市	ボッチャの練習サポート
着物交流サークル	防府市	イベントの運営補助
周南ちるちあネット	周南市	子ども食堂の調理補助
生野あそぼう会	下関市	インドネシア実習生と野外体験 及び交流



イベントの運営補助



子ども食堂の調理補助

【回 数】46回 【参加者】延べ331名 【団 体】16団体

情報発信

You Tube

高校生、大学生等が県民活動団体の活動を実際に体験する「ボランティア体験会」を開催した県民活動団体の活動紹介動画を配信（6本制作）

- ①生野あそぼう会
- ②着物交流サークル
- ③清水家住宅とのいちサポーターズ
- ④ハダシランド周南
- ⑤NPO法人文化遺産トラストほうふ
- ⑥山口県ボッチャ協会

県民活動 紹介動画

生野あそぼう会



活動紹介記事

活動説明会・体験会を実施した16団体の活動紹介記事を作成



2 プロボノによる県民活動団体の基盤強化事業



趣 旨

県民活動団体が年間を通じてプロボノを利用できる体制を整備・運営し、プロボノの活用による、団体の人材育成・確保と財政基盤の強化を促進

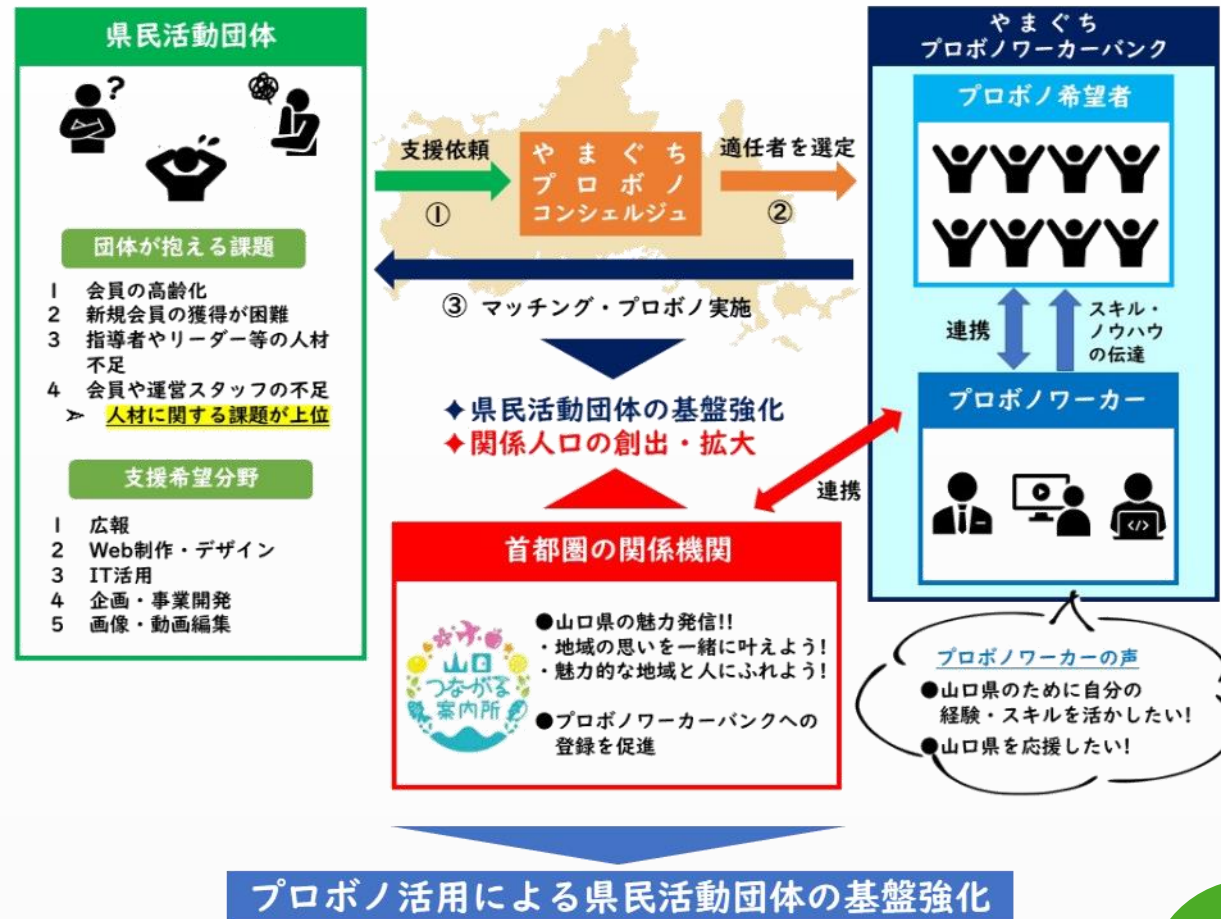
※プロボノ：仕事上、身に付けた専門的な知識や技術を活かしたボランティア活動

事業内容

【事業費：6,865千円】

事業イメージ

団体の基盤強化につなげるプロボノの活用体制の整備

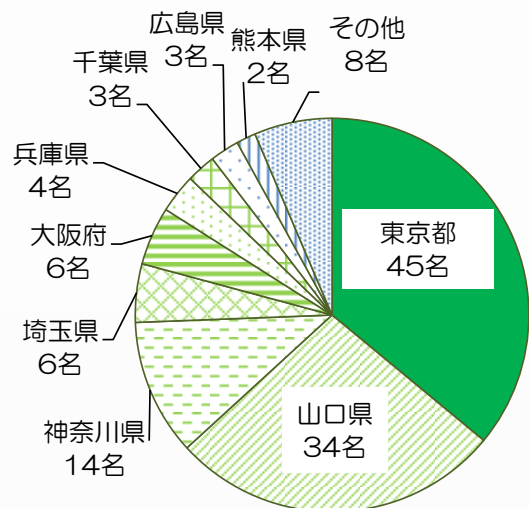




「やまぐちプロボノワーカーバンク」登録状況（令和7年3月末時点）

在住都道府県

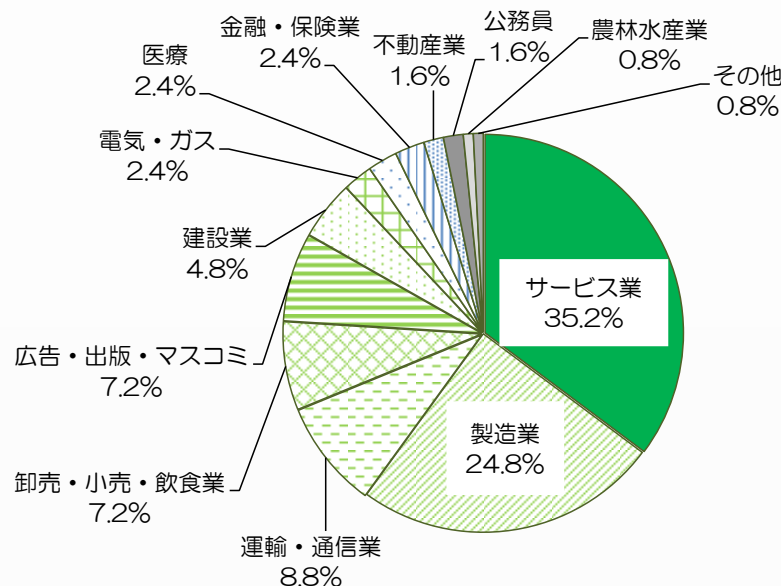
■全国各地域から**125名**の方々に登録していただいております。東京都や神奈川県、埼玉県等の**首都圏在住の方々の登録が半数以上**を占めている。



東京都	36.0%
神奈川県	11.2%
埼玉県	4.8%
大阪府	4.8%

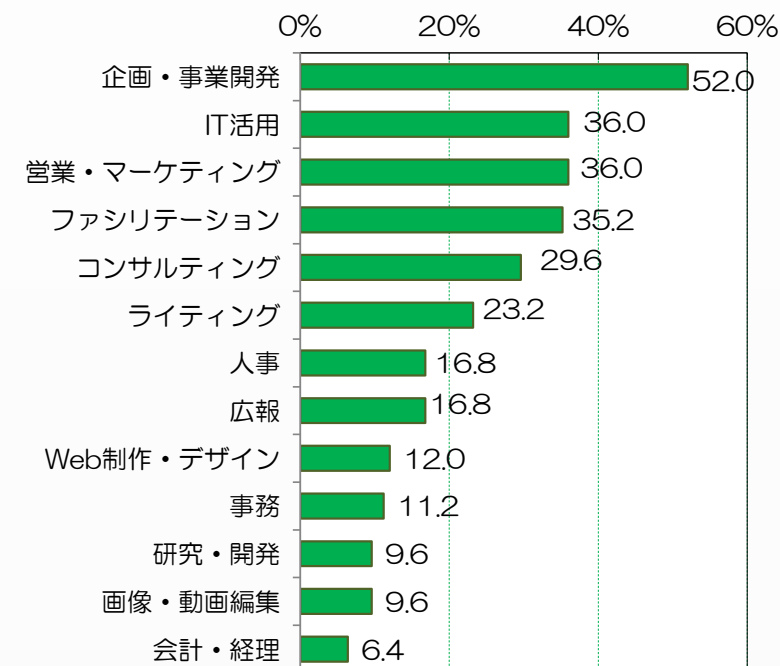
業種別登録状況

■「**サービス業**」に従事する方が**約4割**を占め、続いて「**製造業**」、「**運輸・通信業**」が上位を占めている。



スキル別登録状況

■「**企画・事業開発**」が**5割**を占め、続いて「**IT活用**」、「**営業・マーケティング**」、「**ファシリテーション**」が上位を占めている。





マッチング・活動状況

マッチング数

■延べ25団体と33名のワーカーをマッチング

情報発信に課題を抱えている団体が多く、団体とWeb制作やIT活用、広報に関するスキルを持つワーカーがチームになり、団体のHPの見直しやSNSを活用した情報発信力の強化に取り組んだ事例がある。

団体が解決したい課題	マッチングしたワーカーのスキル
HPの見直し・改善	Web制作・デザイン、IT活用
イベントやボランティアの参加者数増に向けた効果的な広報	広報、IT活用、ライティング
「資料作り」「見せ方」「プレゼン力」のスキル向上	企画・事業開発、営業・マーケティング、広報、ファシリテーション
キントーンを活用した業務管理、日報、会計等の作業の効率化	IT活用、コンサルティング
ホームページやSNSでの寄付の仕組みの構築	Web制作・デザイン、広報、ライティング

交流会

【日時】令和6年6月15日

【方法】現地・オンライン（現地：パルトピアやまぐち、オンライン：Zoom）

【参加者】54名（現地：29名、オンライン：25名 など）

【内容】①講演：「プロボノの現状と地域づくりの可能性」
（講師）認定NPO法人サービスグラント 代表理事 嵯峨生馬氏
②パネルディスカッション：プロボノの魅力や企業として取り組むメリット、これからのプロボノ活動など、様々な意見交換を実施
③交流会：一般参加者も交えて、プロボノに関する自由な意見交換を実施

成果報告会

【日時】令和7年2月8日

【方法】現地・オンライン（現地：しものせき市民活動センター、オンライン：Zoom）

【参加者】52名（プロボノワーカー：23名、受入団体：21名 など）

【内容】①報告会：R6年度に活動した団体から、活動内容と成果の報告
過年度活動した団体から、その後の進展について報告
②意見交換会：プロボノワーカー、団体、一般参加者での意見交換

≪報告団体（抜粋）≫

団体名	所在地	活動内容
NPO法人ココメイト山口	山口市	「地域リハビリのサブスク企画」事業化
豊浦、鬼小屋の会	下関市	鬼ヶ城の魅力を伝えるガイドマップ作成
家庭教育支援チーム「ふぁみ」	長門市	子どもたちがSNSを上手く使うための資料作成

3 協働ネットワーク強化による県民活動促進事業



趣 旨

県民活動団体が多様な主体と協働できる体制整備を図り、「協働」による地域課題の解決に向けた取組を推進するとともに、県民活動を通じた人と人とのつながりによる地域の絆づくりを推進

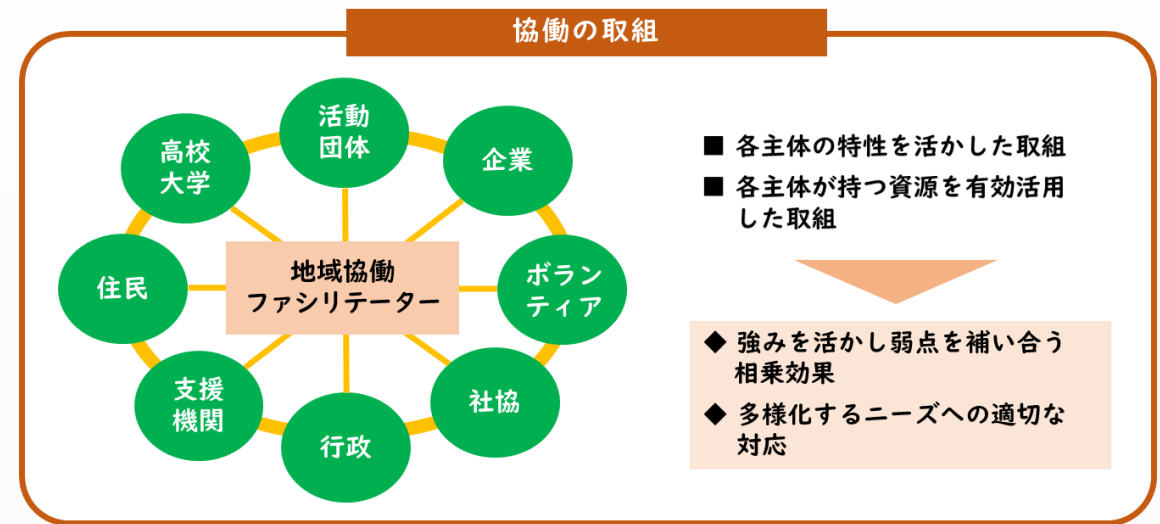
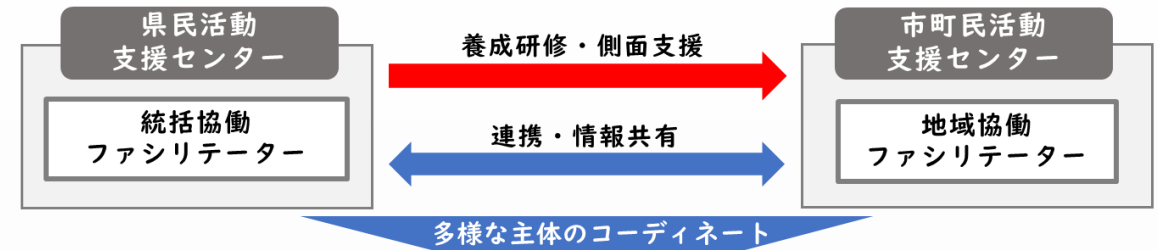
事業内容

【事業費：3,485千円】

項 目	内 容
協働体制の整備	○「<u>地域協働ファシリテーター</u>」養成研修の開催 ・市町民活動支援センターのスタッフ等を対象として実践につながる研修を開催 ○<u>市町民活動支援センターへの支援</u> ・やまぐち県民活動支援センターに配置する「統括協働ファシリテーター」による支援 ・「協働ファシリテーター実践のしおり」の作成 ○<u>情報共有会議の開催</u> ・課題解決に向けた各地域の取組状況を共有し、成功事例の全県展開を図るとともに、活動団体と多様な主体とのネットワークを形成

事業イメージ

多様な主体と協働できる体制の整備



地域課題の解決・地域の絆づくりの推進



「地域協働ファシリテーター」養成研修の開催

	研修内容	講師	参加人数
第1回	協働に生じる「手詰まり」もスツキリ！	NPO法人ふくおかNPOセンター 代表 古賀 桃子	8名
第2回	協働を一步進めるためのノウハウ習得セミナー	NPO法人やまぐち県民ネット21 理事 伊藤 彰	14名

市町民活動支援センターへの支援

協働主体の掘り起こし

- 各センターの要望をヒアリングし、実情に応じて統括協働ファシリテーターがセンターを訪問。
- 具体的な協働やコーディネーションのニーズがあるセンターには、協働の対象となりうる各主体やその組み合わせ方を紹介・提案。



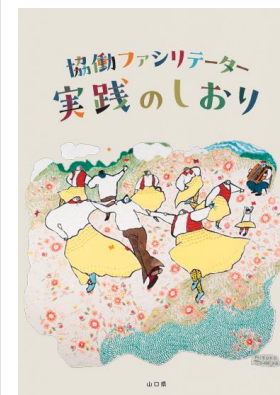
伴走支援

- 各センターの協働に関する要望や課題をヒアリングし、統括協働ファシリテーターが、県外から招いた講師とともにセンターを訪問し、助言を行いつつ、質疑応答や情報提供を実施。



「協働ファシリテーター実践のしおり」の作成

- 今後、協働促進に取り組む市町民活動支援センターの職員等が、ファシリテーションのプロセスに着目しながら参照できるツールとして作成。



《事例紹介》

- 1 **【長門市】** NPO×企業の協働①
 - 2 **【山陽小野田市】** NPO×企業の協働②
 - 3 **【山口市】** NPO×大学×企業など
マルチな協働
 - 4 **【防府市】** NPO×教育機関の協働
- (参考記事)
【山口市】 企業とNPOの協働を促す
 既存の仕組み



情報共有会議の開催

第1回：12月23日

【テーマ】災害支援に関する協働の取り組み方

■内 容

- ①防府市市民活動支援センターからの情報提供
 - ・多様な主体と協働して取り組んでいる災害支援や防災に関する活動について
- ②他のセンターからの情報提供
 - ・NPO等による災害支援のネットワークづくり など
- ③助言者からの取組紹介やコメント・助言
 [助言者] ひろしまNPOセンター事務局長 松原 裕樹 氏

■参加者数 25名



第2回：3月17日

【テーマ】協働で問題解決を図ってみよう

■内 容

- ①自己&取組紹介
 - ・今年度取り組んだ協働に関して発表・情報 交換
- ②問題の棚卸しワークショップ（前半）
 - ・参加者同士がそれぞれの事業・組織運営について抱えている問題を出し合う
- ③問題の棚卸しワークショップ（後半）
 - ・前半で出た問題を解決するために協働でどう取り組めるかを考え合う

■参加者数 13名



4 きららでキラリ！県民活動促進事業



趣 旨

県民一人ひとりがキラリ！と輝き活躍できるよう、山口きらら博記念公園でのイベントの開催を通じて、県民活動の魅力発信や参加機会の提供等を行い、団体の活動を活発化させるとともに、誰もがいきいきと県民活動に参加できる環境づくりを促進

事業内容

【事業費：10,400千円】

項 目	内 容
イベント・交流会等の開催	○「きららでキラリ！県民つながるフェスタ」の開催 ・団体等のステージ発表、PRブースの出展 ・優れた取組を行う団体の表彰 ・「ゆめ花マルシェ」との連携 ○出展者や運営ボランティア等が参加する交流会の開催 ・イベントを通じた交流・連携等をテーマに、複数回開催

事業イメージ

「きららでキラリ！県民つながるフェスタ」の開催を通じた県民活動の促進



「きららでキラリ！県民つながるフェスタ」の開催

【日 時】 令和6年10月26日（土）・27日（日）

【会 場】 山口きらら博記念公園 大芝生広場（山口市阿知須）

【内 容】

■県民つながるステージ

- ・ダンスや歌などで地域を元気にしている皆さんによるパフォーマンス（10団体）

■県民つながるテント

- ・県民活動団体や中間支援組織等が設ける体験・交流・展示の場（40団体）

■県民つながるボランティア

- ・おもてなしやイベント運営で来場者の「つながる」をサポート（延べ17名）

■きららでキラリ！新企画提案コンテスト最終審査及び表彰式

- ・今までに取り組んだことのない新しい県民活動に挑戦する団体の企画提案の最終審査を来場者投票により行い、上位3者については表彰式を実施

■優れた取組を行う団体の表彰等

- ①「チャレンジやまぐち！地域貢献賞」表彰式
- ②「県民活動きらめき賞・文化芸術活動きらめき賞」表彰式
- ③「企業ボランティア活動促進モデル事業所」指定書贈呈式

ステージ



テント



ボランティア



コンテストPRブース



コンテスト表彰式



表彰等



説明会・交流会の開催

オンラインによる募集説明会の開催

■ 7月7日、7月20日

つながるフェスタ参加希望者等を対象とした説明会（参加者数：15名）



新企画提案コンテストのミニ講座の開催

■ 7月17日、8月3日

新企画提案コンテスト募集説明、企画立案ミニ講座（参加者数：25名）



参加説明会・交流会

■ 8月18日、10月6日

つながるフェスタ開催に関する詳細説明、企画持ち寄り交流会（参加者数：67名）



きららでキラリ！県民つながるカンファレンス TSUNAカン2025

■ 3月16日

つながるフェスタなど、各自が取り組んだ令和6年度の活動を振り返り、来年度に向けた意見やアイデアを募る交流会（参加者数：48名）

◆ 講演

県民活動レベルアップ
～みんなが集う場が市民の力に～
講師：澤田 裕二氏

UG WORK 合同会社 代表
山口ゆめ花博プロデューサー
2025日本国際博覧会協会テーマ事業ディレクター

◆ トークセッション：イベントの良さについて改めて考えよう

澤田 裕二氏×平田 隆之（NPO法人市民プロデュース理事長）

◆ ワーク：話そう、つながろう

- ① 「つなフェス2024」と講演を振り返ろう
- ② 「つなフェス2025」をイメージしよう



Ⅱ やまぐち県民活動促進実行委員会事業



概要

県、公益財団法人山口きらめき財団及びやまぐち県民活動支援センターとで実行委員会を組織し、三者が連携しながら事業を実施

事業内容

項目	内容
県民活動促進キャンペーンの実施	県民活動促進期間（10月～11月）を中心に、県民活動の拡がりと発展を目的とするキャンペーンを実施 ・啓発グッズ等の作成・配布
「きららでキラリ！県民つながるフェスタ」の開催	P10～12参照
県民活動フェスタの実施	県民の皆様に県民活動への理解を深めていただき、活動への一層の参加を促すため、県民活動団体や市町の関係者が一体となって開催 ①期間：令和7年10月～令和8年3月（予定） ②地域：下関、長門、山陽小野田、防府、周南、岩国 ③主体：実行委員会及び該当市町、市町センター ④手法：市町センターが主催するイベント等と連携して開催

「県民活動フェスタ」の令和6年度開催状況

長門市市民活動支援センター「夕涼みマルシェ～こども縁日～」と連携

日付：令和6年8月2日（金）
内容：ブース出展、
県の取組を紹介する展示等



防府市市民活動支援センター「ほうふ市民活動フェスタ2024」と連携

日付：令和6年9月29日（日）
内容：団体のステージ発表、ブース出展、県の取組を紹介する展示等



山陽小野田市民活動センター「スマイルフェスタ2024」と連携

日付：令和6年11月3日（日）
内容：ブース出展、
県の取組を紹介する展示等



いわくに市民活動支援センター「市民活動カフェ2025」と連携

日付：令和7年1月26日（日）
内容：ブース出展、県民活動に係る個別相談会、県の取組を紹介する展示等



意見交換項目：多様な主体との協働に向けた取組について

協働の推進に係る今後の事業展開に向けて、次の項目に関する御意見をお伺いしたい。

- ①協働の必要性（必要とされる取組・活動・シチュエーション等）
- ②協働の推進に向けての課題
- ③効果的と思われる取組手法等（今回提示したもの以外）
- ④協働の好事例

【現況と課題】

- 令和 7 年度県民活動実態調査において、多様な主体との協働の実績があると回答した団体は約 4 割であり、5 年前と比べると、実績は減少しており、広がっていない状況にある。また、協働の相手方は、「市町」が最も多く、次いで「大学等」となっている（参考①）。

※協働・・・相互の存在意義を認識し尊重しあい、相互にもてる資源を出し合い対等な立場での共通の目標を達成するため、お互いに協力すること

※多様な主体・・・行政、企業、学校、他の N P O（任意団体）、財団法人等

- 多様な主体と協働する際の課題として「協働を進める人材がない」「協働を申し入れるノウハウがない」「協働すべき相手が分からない・見つからない」という回答が多い。また、市町民活動支援センターに期待する支援策として「協働コーディネート」という回答が 32.7%であった（参考②）。

- 県は、令和 5 年度から協働の推進に資する施策として市町民活動支援センターのスタッフの方々などを対象に「地域協働ファシリテーター」の養成研修・伴走支援等を実施し、各地域において協働をコーディネートする人材の確保・育成に努めている。

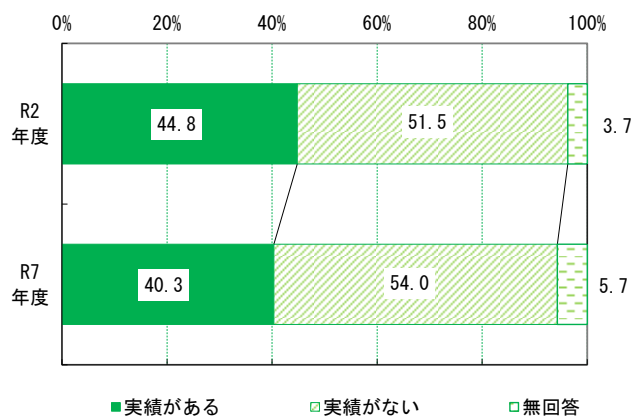
さらに、令和 6 年度には、協働促進に今後取り組む市町民活動支援センターの職員等が、ファシリテーションのプロセスに着目しながら参照できるツールとして「協働ファシリテーター実践のしおり」を作成した。

- 今後は、これまでの取組をベースに、協働ファシリテーター等支援人材の活用促進のための仕組みづくりや、多様な主体との協働のニーズはあるが協働に踏み込めない団体を中心としたモデル的な取組の実施等を検討している。

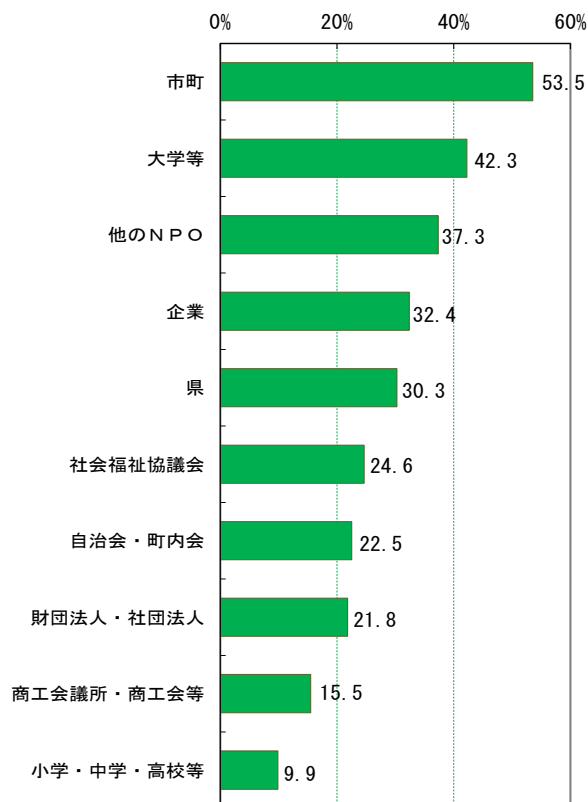
【令和7年度県民活動実態調査】

《参考①》「多様な主体との協働」について

[多様な主体との協働の実績]

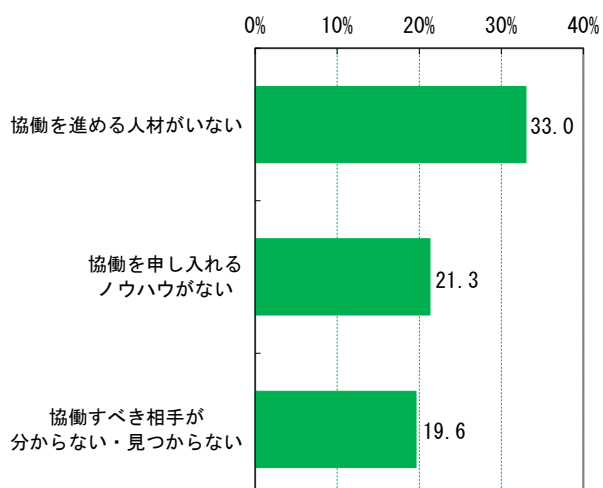


[協働の相手方] (複数回答)



《参考②》「多様な主体と協働する際の課題」について

[多様な主体と協働する際の課題 (上位)]



[市町民活動支援センターに期待する支援策 (上位)]

